

児童期から成人期へのトランジション

～強度行動障害をめぐって～

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を受けております。<承認期間:2022年7月2日~2027年7月1日 承認番号:20210392>

期 日 : 2024年11月30日(土)・12月1日(日)

受講対象 : 教諭、養護教諭、保護者、学校関係者、保育、相談支援に関わる方、および関連の専門家、またはこれらの専門家を目指す方

定 員 : 80名 (定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください。先着順となります。)

受講料 : 15,000円(税込み)

主 催 : 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

会 場 : 明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします
東京都豊島区高田3-19-10
JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

自閉症や知的障害の方で強度行動障害を有する人は、その特性に適した環境調整や支援が行われない場合には、本人の困りごとが著しく大きくなって自らの行動を損ねたり、周囲の人の暮らしに影響を及ぼしたりする行動上の課題が高い頻度で起こります。強度行動障害は状態像であり、生まれつきの障害ではありません。

そこで周囲の人や支援者には「問題となる行動が起きたらどう止めるか」ではなく、「問題行動を起こさないようにするためにはどうしたらよいか」という予防的支援の視点が必要となります。同時に、知的障害や自閉スペクトラム症の特性などの障害特性を踏まえた機能的アセスメント(課題となっている行動がどのような意味を持つのか調べる)を行い、強度行動障害を引き起こしている環境要因の調整を行う「標準的な支援」が求められています。

この講座では、各専門支援機関で行われている実践を通して強度行動障害への理解を改めるとともに、標準的な支援の知識を参加者の皆さまと共有していきたいと考えています。そして、それぞれの参加者の方が標準的な支援を地域の中につなげていただくことで、強度行動障害が現れやすい人たちが地域社会の中で安心して暮らしていける社会の実現を目指します。

いま目の前の子どもたちは、いつか大人になっていきます。その過程で環境の変化は避けて通れません。いつか大人になる子どもたちへの途切れない支援についても、参加者の皆さまと一緒に考えられれば幸いです。

【企画講師: 桑野大輔・加藤進昌】

【プログラム】

※時間割・テーマ等が変更となる場合があります。

日程	時間	テーマ	講師 (敬称略)
11月30日(土)	13:00~14:00	「自閉症」を再考する ～発達障害に似て非なる人たち～	公益財団法人神経研究所 理事長 東京大学 名誉教授 加藤 進昌
	14:15~15:15	行動障害を有する幼児・児童への支援 ～予防的(早期)支援と間接的支援～	東京都発達障害者支援センター (こどもTOSCA)センター長 坂田 由紀子
	15:30~16:30	行動障害への地域支援の現状 ～行動障害と言える困難を踏まえ～	板橋区発達障がい者支援センター (あいポート)センター長 小山 伸子
	16:30~17:00	質疑応答	司会: 加藤 進昌 / 出席講師
12月1日(日)	9:00~ 9:30	成人期へのトランジション	(前掲) 加藤 進昌
	9:45~10:45	精神科デイケアという心理社会的治療	公益財団法人神経研究所 精神保健福祉士 桑野 大輔
	11:00~12:00	サーズデイ(強い自閉特性や知的障害をもつ 発達障害対象の)プログラム	学校法人昭和大学 昭和大学附属烏山病院 看護師 大岡 由理子
	12:00~13:00	昼 食 (各自お取りください)	
	13:00~15:20	サーズデイプログラム運営(小石川東京病院版) &プログラム体験	医療法人社団大坪会 小石川東京病院 臨床心理士 松岡 今日子 (前掲) 大岡 由理子 当事者
15:30~16:00	全体討論	司会: 加藤進昌 / 出席講師	